



RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI 2011

やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告

新規就農者の経営安定に向けた支援

「中北地域普及センター」



●新規就農者への指導

農村における担い手の高齢化や耕作放棄地の増加が課題となる中、中北地域の新規参入者、Uターン就農者、退職帰農者などの新規就農者は近年、増加傾向にあり、今後の地域農業の担い手として大いに期待されています。

普及センターでは、新規就農者に対して現地ほ場において栽培技術指導を行うとともに、税務管理、青色申告の基礎知識などを学び、経営者としての資質向上を図るための実践能力向上研修を開催しています。

昨年は管内の新規就農者約50名を対象に、税理士とPOP業界から講師を招き、青色申告のポイントや農産物の販売戦略について研修を開催しました。

今後とも、地域農業の将来を担う新規就農者を、重点的に支援をまいります。



●講師を招いての研修会



峡東地域への就農定着に向けて

「峡東地域普及センター」



●ブドウの管理実習



峡東管内への就農定着を目指し、就農定着支援制度推進事業（以下：定着支援事業）が今年も5月6日より始まりました。峡東管内は11名の研修生が、市、JAの協力を得て、山梨市、笛吹市、甲州市の農家（アグリマスター）で、研修に取り組んでいます。

この定着支援事業は、就農間もない方やこれから就農する方を対象に、管内の果樹農家の下で、栽培技術や経営管理技術の習得に向け、果樹栽培の実務指導を受け、就農後のスムーズな経営開始が行われるよう支援するものです。研修生は平成24年3月末には、自分を中心となり果樹経営をスタートします。1年間の短い研修期間ですが、この研修で十分な成果を出し、自分の経営に繋げたいと意欲的です。

現在、「JAフルーツ山梨岩崎支所青年部」では、3名がアグリマスターとなり、勝沼に就農する研修生への支援をグループで行い、研修生がより多くの事例を研修する機会を得ています。また、甲州市では「甲州市就農定着支援制度推進事業」を創設し、地域版の研修制度を開始しており、県の事業と連携を図る中、更なる担い手の確保に取り組んでいます。

今後も、定着支援事業を受けている研修生が、峡東地域に就農できるよう各市、JA等、関係機関と連携し、積極的に取り組んでいきます。

企業の農園づくり活動の取り組み

「峡南地域普及センター」



●みんなで集合写真



●水辺の生き物観察



●田植えの様子

山梨県では、企業の社員研修、福利厚生、社会貢献の活動として農園を活用する「やまなし企業の農園づくり活動」を推進しています。

これを受け、峡南地域普及センターでは、農事組合法人結いの里しもべ（身延町常葉）において、平成22年度末から企業の農園づくり活動を検討してきたところ、パナソニックファクトリーソリューションズ株式会社（昭和町紙漕阿原）が企業の農園として、結いの里しもべの農園を活用することが決まり、1回目の活動として平成23年6月11日（土）に、約5aの水田で田植えを行ないました。当日はあいにくの天候でしたが、楽しく作業することができ、また水辺の生物の観察も行いました。

同社は、この企業の農園づくり活動で、農作業を通じて社員間の親睦を深めるとともに、耕作放棄されていた水田を活用することで社会に貢献したいと考えています。

今後は、秋に稲刈りや落花生、サツマイモの収穫を行う予定です。

NARUSAWA

Blueberry ブルーベリーの特産品開発の取組み



鳴沢村道の駅



「富士・東部地域普及センター」

鳴沢村では、多くの観光客が訪れる立地条件を生かし、「道の駅」を核にしたイベントや収穫体験等の取組みを盛んに行っています。その中の一つにブルーベリーの観光摘み取りがありますが、入込み客の伸び悩み等に伴い、果実を有効に活用することが求められています。

そこで、当普及センターでは、平成20年にブルーベリー生産組合に所属する女性達からの要望を受け、「ジャム作り講習会」を開催し、これをキッカケに、グループでジャム作りをすることになり、組織づくりや加工・表示等に係る指導や情報提供を行ってきました。8月には、「ブルーベリー生産組合婦人部」（9名）が立ち上り、初年度は生産量が少ないながら完売し、その後も順調に伸び、「道の駅」の特産品の一つとなっています。現在、更なる新商品の開発や販路の拡大に向けて、試作・検討を続けています。

今後の活動に期待するとともに更なる活動の拡大に向けて支援してまいります。



●加工品試作検討会